



# 生涯学習

No.527

## かおり高い 文化のまち

### 地域の中で子どもたちが育つ町に

教育長 松崎 泉



小学校の頃、日課が終わると町内の野球チームの練習があり、六年生を先頭に毎日のようにバットとグローブを持って校庭に集まりました。薄暗くなつての帰宅時、近所のおばあさんに会うと、必ず「おつかえでございませう」と言われたことを覚えています。私は「こんばんは」と返すばかりでしたが、今になって考えて見ると、それは「お帰りなさい。お疲れ様」の挨拶だったんですね。一声かけていただくだけで、いつも見守り応援してくださっているんだなと温かい気持ちになりました。

先日あすなる公園に遊びに来た子どもたちに「こんにちは」と大きな声で言われ、思わず「元気のいい挨拶ですね」と返すと、「ありがとうございます」と笑顔で答えてくれました。私は、本年度も子どもたちが懸命に頑張っていることを、機会あるごとに発信し応援したいと思っています。

昨年度の「社会を明るくする運動」の作文の中には、何気ない日常生活の中で、人や物事などに関わったときの感動や思いが子どもたちの素直な言葉で表現されています。「地域の方々との繋がりを深くすれば」「親切やありがたみの輪を広げ

れば」など、その時々状況に合わせて自ら行動すれば思いやりのある明るい社会になるだろうという考えは、それぞれが個性豊かで素敵な内容でした。

また、二月号で紹介させていただきました「町健全育成研究集会」では、直接的な関わりだけでなく、花を育てるなど長期的な活動から得た達成感や、地域の方々とのふれあいの中で交流を深めていくことの価値などが発表されました。

この集会を通して、学校や地域コミュニティスクールに於ける取組の様子を発信したことで「地域ぐるみの教育の大事さが分かりました」「各学校が地域の支援を受け、活動に繋がっていることで、よい環境ができていると思いました」などの感想をいただきました。更に「保護者の皆様を含め、より多くの方に見に来ていただきたいです」というご意見もありました。

子どもたちにとって、得意なことを生かして真剣に取り組んできた努力の成果を発表する機会は各種大会・発表会等ありますが、特色ある学校・学級の活動、各区分行事等への参画など、町民の皆様にも実際の様子を伝える機会が少ない取組もあります。お忙しい中かとは存じますが、学校公開日・参観日等に於ける地域講師による学習、〇〇学校を語る会、子どもが活躍するイベント等に、是非お出かけください。そして、日頃からの努力の積み重ねや頑張りを応援していただければ幸いです。その中で、子どもたちから素敵なエネルギーをもらいましょう！

さて、町制施行一二五周年の年。ご入学・ご進学、ご就職等、おめでとございます。一人ひとりの皆様のもつ夢の実現に向けて、明るく元気にスタートしましょう。

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp



# 新しい春を迎えて



上久保 加藤 みどり

バイスをしてくださる「ぼけつと」の先生方や知り合えたお母さん方との出会いに感謝しています。

こうして家に閉じこもりがち  
な時期も「ぼけつと」でのイベ  
ントや図書館で毎週行われる  
「おはなしのへや」など、子ど  
もと参加できる行事に参加する  
ことでよい気晴らしにもなりま  
した。

この春より我が家では、子どもが保育園へと入園します。出座から今まであつという間のよ  
うな、長かったような気がしま  
す。保育園という新しい環境に  
期待と不安が入り混じったよう  
な、でも、これからが楽しみな  
春です。  
初めての育児は、慣れたころ  
に次のステップに進まなくては  
ならず、ずっと初めて続きで戸  
惑うことも多いです。楽しいこ  
と、嬉しいこと、大変なこと、  
辛いこともあるのが育児なのだ  
なあと実感しつつ、家族を始め  
まわりの方々に支えられながら  
過ごしてきました。育児をして  
いく中で、家族の協力は本当に

ありがたいもので感謝していま  
す。そして、町の子育てサポー  
トにもとても助けていただきま  
した。

産後の体調も落ち着き、そろ  
そろ外との関わりが恋しくなっ  
てきたところに子育てふれあいセ  
ンター「ぼけつと」で開講され  
ていた「初めての子育てをして  
いる0歳児のお母さんを対象に  
した『親子の絆づくりプログラ  
ム』(B.P.)」に参加しました。  
自分と同じ初めての育児中のお  
母さん方と知り合うことができ、  
一緒に遊び、お互いに相談する  
ことで育児中のもやもやが晴れ  
ることも多く、さりげなくアド

また、各保育園で行われる未  
就園児を対象とした「だっこの  
会」での行事に参加する中で、  
子どもの通う保育園がどんな場  
所か遊びながら知ることができ、  
親子共に楽しい時間を過ごすこ  
とができました。すでに保育園  
に入園しているお母さんのいら  
っしゃるお母さん方ともお話が  
でき、保育園の様子を知ること  
ができた、ちよつとした会話  
の中で育児の悩みが解決するこ  
ともあったりと、ここでも色々  
と助けられました。子ども自身  
も保育園という場所に少しずつ  
慣れることができ、これからの  
保育園生活を楽しみにしている  
ようです。

今までずっと一緒に過ごして  
きた我が子と少し離れることにな  
るわけですが、さみしいよう  
な少し自分の時間が持てること  
が嬉しいような気持ちです。保  
育園への入園は、子どもにとつ  
てたくさんのお友達や先生と出  
会える新しい世界を持つことで  
す。そして私自身も新しい世界  
の始まりと、我が子のさらなる  
成長に期待で胸がふくらんでい  
ます。

※B.P.:初めて赤ちゃんを育て  
ている母親のためのプログラム。  
詳しくは、子育てふれあいセン  
ター 電話二七―五二四四まで。





## 中学校に向けて



下諏訪南小学校

松浦

花音 かのん

私が、今年一番頑張ったことは、合奏団の副団長です。夏にあったコンクールでは、ソロを吹かせていただいて、とってもいい経験をしたな、と思っっています。また大勢の人をまとめる機会は何度もないので、よかったと思っっています。

中学校に向けて頑張っしていきたいことは、小学校の総復習と中学校の予習をしていきたいです。なぜなら、中学校の最初は、小学校の復習だと、先生に聞いたからです。だから、小学校の総復習をしておけば、中学に入ったとき困らないと思っただからです。また、中学の予習をしておくことで、中学の授業が始まっても、発言することができると思っただからです。

だから、中学に向けて小学校の総復習と、中学の予習をしておいて、中学校に入学したときに困らないようにしたいです。そして、発言ができるような中学生になりたいと思っっています。

また、中学校では、部活動を頑張っしていきたいと思っます。先ほどいいいしましたが、私は合奏団の副団長をやっっていたので、吹奏楽をやりたいと思っっています。だから、部活動を頑張っしていきたいと思っます。

(平成二十九年度卒業生)

## 中学校への決意



下諏訪北小学校

高木

彩羽 いろは

中学校に入學すると、勉強が難しくなったり人との関わりが大車になってきます。私は良い成績を取りたいし、周りの人の気持ちを明るくできるような人になりたいです。そのために頑張りたいことが二つあります。

一つ目は勉強です。中学から勉強の量が増えたり、難しくなったりします。また、期末テストもあります。成績やテストの点数が良くなるように、予習・復習や自主学習をやりたいです。そして、授業に真剣に取り組み、分らないところがあつたら、教科書などでよく確かめたいです。中学校はたつた三年間なので、高校受験がすぐです。受験の時に困らないように、中学一年から勉強に真剣に取り組みたいです。

二つ目は、人との関わりです。友達を大切にっして、相手がよることんだり、明るくなつたりしてくるように、相手の気持ちを考えながら行動したいです。その中の一つが「あいさつ」です。あいさつはしてもらうと、とてもうれっしいです。なので地域の方、友達、先生などにあいさつを忘れずにしたたいです。「ありがと」や「ごめんね」も忘れないようにこころがけたたいです。

私はこの二つのことを常に頭に入れながら行動して、良い中学校生活にしたたいです。

(平成二十九年度卒業生)



## 4月、新たな気持ちで

### ここで学んだことを胸に



下諏訪向陽高校 上條 雄也

不安と期待を抱えて入学した三年前のことが、つい最近あったような感じに捉えてしまうほど、向陽高校で学んだ三年間はとても充実していました。その中で学んだことはたくさんあります。

私は吹奏楽部に所属していましたが、活動していく中で、仲間との「協調性」やすべての方々に「感謝」することを学びました。「協調性」では、一つの音楽を作りあげるのに何時間、長いものであれば何百時間もかかります。時には仲間と意見が対立し、なかなか上手くいかないときもありましたが、話を聞くうちに意見の対立から一つの方向を見出すことができました。

また、「感謝」については、部活動で関わった方々、仲間、先生方、そして何より一番感謝しなければならぬのは家族です。食事から精神面のサポートなど様々な面において支えてくれました。高校生活の中で関わった方々、本当にありがとうございます。

私はこの春から県外の大学に進学します。不安や期待は高校入学時より大きいです。向陽高校で学んだ三年間の力を糧に頑張ります。私は下諏訪町出身ですので、十八年間住み続けたこの町を離れるのは寂しい気持ちがありますが、将来的にはこの町へ戻ってきたいと考えています。私の将来の夢を実現させるために、さらに勉強して少しでもこの町に貢献できる人材へと生まれ変わってきます。

(平成二十九年度卒業生)

### 高校生活で得たものを大学へ



下諏訪向陽高校 渡邊 空美

気がつけば私が高校に入学してからあつという間に三年の月日が経とうとしています。緊張をし、不安を抱えながらの入学式がつい先日のように思えます。高校生活を振り返ってみると、部活動や勉強、友人関係など様々なことがありましたが、私が一番印象に残っているのは、三年生の時の文化祭でした。

私は、一、二年生の時に先輩方の姿に憧れを抱き、三年生になったら必ずステージに立つと決めていました。三年生になり、後夜祭の係長に立候補し、務めることになりましたが、舞台上では華やかだったこの係の仕事は、目に見えない部分で想像以上に大変なものでした。初めはぎこちなかった副係長の二人とも、準備を進めていく上で打ち解け、分担して仕事を自らしてくれるようになりました。副係長や後夜祭係、先生方の支えもあり、無事に後夜祭を終えることができ、高校生活一番の思い出になりました。このようにたくさんの方々を支えられて、本当に有意義な高校生活を送ることができました。

私はこの春から教育系の大学へと進学します。独り暮らしが始まり、今までやってきてもらったことも自分一人でやらなければいけなくなります。両親にここまで育ててくださったことや大学に進学させてくれることに感謝し、新しい仲間と同じ夢に向かって協力し、日々を大切に過ごしたいと思えます。そして生徒に親身に向き合い、胸を張って生徒の手本となれる教師になりたいです。

(平成二十九年度卒業生)

歴史の町下諏訪。各区に眠っているお宝を、地元の方に解説していただきました。

## 火伏観音と鎮火祭

田中町 河西 孝雄

### 火伏観音

文化十年（一八一三）正月八日、今の明新館の下付近から火が出て、折からの風にあおられて龍の口に飛び火し、更に風が変わって大門筋を総なめにし、五十七戸が焼失する火事があった。

龍の口脇にある石碑類に焼け跡があるのは、難を避けて持ち出したたくさんの荷物に火が付いたためだと伝えられる。文化七年の下之原村（今の第一区）の記録によれば、村の総戸



明新館仏壇内に安置の観音像

数八十八戸とあるから、半数以上が焼失する大火であり、村にとって壊滅的な被害であったことがうかがわれる。

村人はこの後、村の行屋（集会所）にあった観音像（石仏）の膝に「火伏」の二字を刻し、「火伏観音」と称して大火の戒めとし、再発防止と村の再建祈願を毎年続けてきた。この観音様は、今も明新館の仏壇に飾られ、春宮の鎮火祭（後述）の後に拝礼されている。

### 鎮火祭

その後大正七年、第一区ではこの防災祈願を区の行事として正式に取り上げ、「鎮火祭」として毎年二月八日（旧暦正月八日）（現在は近くの日曜日）に諏訪大社春宮で神事を行うこととした。当日は区の理事者、消防等防災関係者、区民等が集まり、諏訪大社の神官によって厳粛に行われている。火災から二百余年経った現在でも、災害を忘れず戒めとして大切にしたい。

## 真清神社

小湯の上 松倉 秀男



花見新道より見上げる高樓と鳥居

来迎寺から花見新道を歩いて行くと、東明館の裏に古ぼけた木造の舞台のような高樓？と、朱色の立派な鳥居がアンバランスに見える。子どもの頃から見てきた景色だが、何の神社か高樓かは知らずじまいだったが、最近、歴史に興味を持つようになってきたら、この「何ぞや」を解明したくなってきた。近隣に住む人の話や「わが町下諏訪・歴史編」を併せると概ね次のような謂れが解った。

明治時代になると主な町には遊郭なる花街が作られ、下諏訪町の塚田町にも下諏訪遊郭が作られた。その中の一軒に「真清神社」があり、この店は人気があつて繁盛していたそうだ。この店の愛好者たちは、地元御田町、湯田町の事業主や有力な人たちに呼びかけ、親睦会的な組織「真清講」を作った。そして純粋に日本の漢として論談気炎を上げ、拠り所として、東明館の裏に同じ名前ではあるが、心の清廉潔白さから「真清神社」を建立したという。楼のご主人の好意から金精様を勧請し、話題の中心として懇親は続き、この舞台に見える高樓は、「真清講の宴会場であつた」とのことだった。

この鳥居の朱色は、お稲荷さんの鳥居の色で、芸妓さんたちなど、表社会へ出られない女性の心の奥に燃える炎の色とも言われる。昔の日本のどこにでもあつた遊郭、そしてこの高樓もまたその歴史の遺産物件の一つと言えるだろう。

# 教育委員会からのお知らせ

しもすわまち 親子で共に遊び 共に学ぼう♪

## だっこの会

町内在住の未就園児とそのお母さんが対象です

だっこの会は、未就園児・在園児等母親の少人数グループによる子育て勉強会として平成6年に発足しました。地域ごとのグループ活動や保育園ごとの全体活動などを行っています。  
手軽に開き、身軽に集まり、気軽に話しあい、保護者・子ども同士がお互いに学びあうことができます。  
初めての方も、先輩ママが助けてくれます。入園前にママにもお子さんにもお友達もができます。楽しいですよ。  
子育てを一人で抱えず、参加してみませんか。

さくら保育園 (矢木町214番地16)	みずべ保育園 (西四王4729番地1)	とがわ保育園 (東山田6725番地2)
27-8764	27-8781	27-3315

**活動内容**

- ～全体活動～  
保育園運動会への参加・ハロウィン・クリスマス会・外部講師による活動など
- ～グループ活動～  
いちご狩り・水遊び・公園遊びなど

～お問い合わせ～  
上記の保育園、または  
教育子ども課 子育て支援係  
(下諏訪総合文化センター内)  
TEL: 27-1111 (内線 716)

正しいフォームを身につけて卓球をもっと楽しく!

前期体力づくり教室

卓球をはじめる  
きっかけづくりに!

## 卓球教室

期日 5/19、5/26、6/2、6/9 (土)

時間 午前9:30～11:30

場所 下諏訪体育館 卓球室

定員 20名 (小学生以上)

参加費 200円 (全4回分保険料含む)

申込事項 ①氏名

②年齢

③住所

④電話番号

⑤ラケットの有無

⑥卓球経験の有無

を下記連絡先までお知らせください。

参加申込は  
5月14日(月)まで

申込・問い合わせ先

下諏訪町教育子ども課スポーツ振興係

TEL 0266-27-1455

FAX 0266-27-0511

または、下諏訪体育館窓口まで



文化センター展示スペースから

「もみの木学級」の皆さんの切り絵作品です

### OPEN

春の声を聞くとともに、「水ぬるむ」という言葉を思い出します。十年前の中学校一年の国語の教科書の冒頭に、緑淡いみずべの情景と共に記されていた言葉です……。

新しい学校、新しい教室、新しい学級そして新しい先生。新しいことづくめの中で、山々に目をやれば早春の息吹の中で点々と新緑の芽吹きが見られ、小川の縁に立つと、雪解けの水が少しづつ冷たさを減じてくるかのような気配が感じられた。

以来毎年巡り来る四月の情景には、進学、就職、新しい職場、同僚……。その年の年度の初めを彩る様々なことがらが一気に押し寄せ、大小の喧噪の中で新しいエネルギーを一身に感じ、前に進もうとしていた。

それがいつの頃からか、春の初めに何もかも一変する新しさを全身で受けとめていたエネルギーは徐々に小さくなり、四月の初めに毎年繰り返される年中行事の一つになってから久しい。

青春の入り口に立つて感じたような、自分を取り囲む幾重もの新しさには遠く及ばないけれど、新しい人と出会い、新しいことを求める気持ちを掻き立て、水ぬるむ季節の日々を迎えたい。

(山田 孝實)